

船橋市環境基本計画
令和 3 年度年次報告書（案）

令和 4 年 1 1 月

船橋市環境部環境政策課

はじめに

本市は、環境が自然界の微妙な均衡と循環の下に成り立つものであることを認識した上で、環境への負荷が少なく、環境との共生が健全な状態に保たれた「持続可能な社会」の構築を目指して、各種の環境保全の取り組みを総合的かつ計画的に推進してきました。これにより環境保全の取り組みには一定の進展がみられたものの、新たに地球温暖化問題への対応、循環型社会の実現に向けた取り組みの強化、生物多様性の確保に向けた取り組みの推進などが必要となりました。

このような社会経済情勢の変化や環境行政をとりまく状況に対応しながら、多様な環境問題の解決に向けて取り組んでいくため、令和3年度から令和12年度までの10年間を計画期間とする船橋市環境基本計画を策定しました。

第3次計画では、市民、事業者、市が一体となって環境の保全及び創造に関する施策を推進することにより、人と自然が共生する環境づくりに努め、現在及び将来の市民が健全で良好な環境の恵みを受けることができるようにすることを目的としています。また、この目的を実現するための施策を定め、更に、計画の着実な推進を図るため、年度ごとに施策の成果を把握して評価を行い、継続的に見直しを行っていくこととしています。

この報告書は、計画の初年度となる令和3年度における計画の進捗状況の評価を実施し、その結果を年次報告として取りまとめたものです。

目 次

第一章 船橋市環境基本計画の進行管理指標及び施策の評価について ……………	1
1 施策の基本方針	2
2 評価の対象	3
3 評価方法（進行管理指標と個別施策）	3
4 評価方法（重点的な取組）	4
第二章 船橋市環境基本計画の進捗状況の評価 ……………	5
基本施策毎の評価	8
施策の柱1 持続可能な地球を未来へつなぐ社会づくり	8
基本施策1 地球温暖化対策の総合的な推進	8
基本施策2 省エネルギーの推進	11
基本施策3 創エネルギーの推進	14
施策の柱2 大切な自然を育み、自然とふれあうまちづくり	16
基本施策4 親しみやすい水辺の創出	16
基本施策5 まちの緑の育成	18
基本施策6 多様な生態系の保全	20
基本施策7 自然の恵みの持続的な活用	22
施策の柱3 資源を無駄なく循環させる社会づくり	24
基本施策8 循環型社会の推進	24
基本施策9 廃棄物の適正処理の推進	27
施策の柱4 健全で快適に暮らせるまちづくり	29
基本施策10 良好な大気の保全	29
基本施策11 健全な水環境の保全	32
基本施策12 快適な生活環境の保全	35
施策の柱5 より良い環境をみんなで育む体制づくり	38
基本施策13 船橋の環境を担う「ひと」づくり	38
基本施策14 船橋の環境を育む「つながり」づくり	40
基本施策15 協働を促進する「しくみ」づくり	42

重点的な取組毎の評価	44
重点的な取組 1	
「みんなで目指す！COOL(クール)な船橋、 ストップ温暖化！」プロジェクト	44
重点的な取組 2	
「みんなで回す！自然の恵みサイクル、 食から環境を良くしよう！」プロジェクト	48
重点的な取組 3	
「みんなでつなぐ！台地から海への水ネットワーク、 育もう豊かな暮らし」プロジェクト	51
重点的な取組 4	
「みんなでつくる！環境を守り育てるひとづくり・ 協働の環」プロジェクト	55
第三章 船橋市環境基本計画の進捗状況の総合的評価	58
1 環境分野全体の評価	59
2 重点的な取組の全体的な評価	61

第一章

船橋市環境基本計画の進行管理指標 及び施策の評価について

1 施策の基本方針

船橋市環境基本計画では、望ましい環境像を実現するため、船橋市環境基本計画の第4章「施策体系と10年後に目指す環境像」で定めた以下の5つの施策の柱をもとに本市の特色を活かした各種の施策を展開しています。

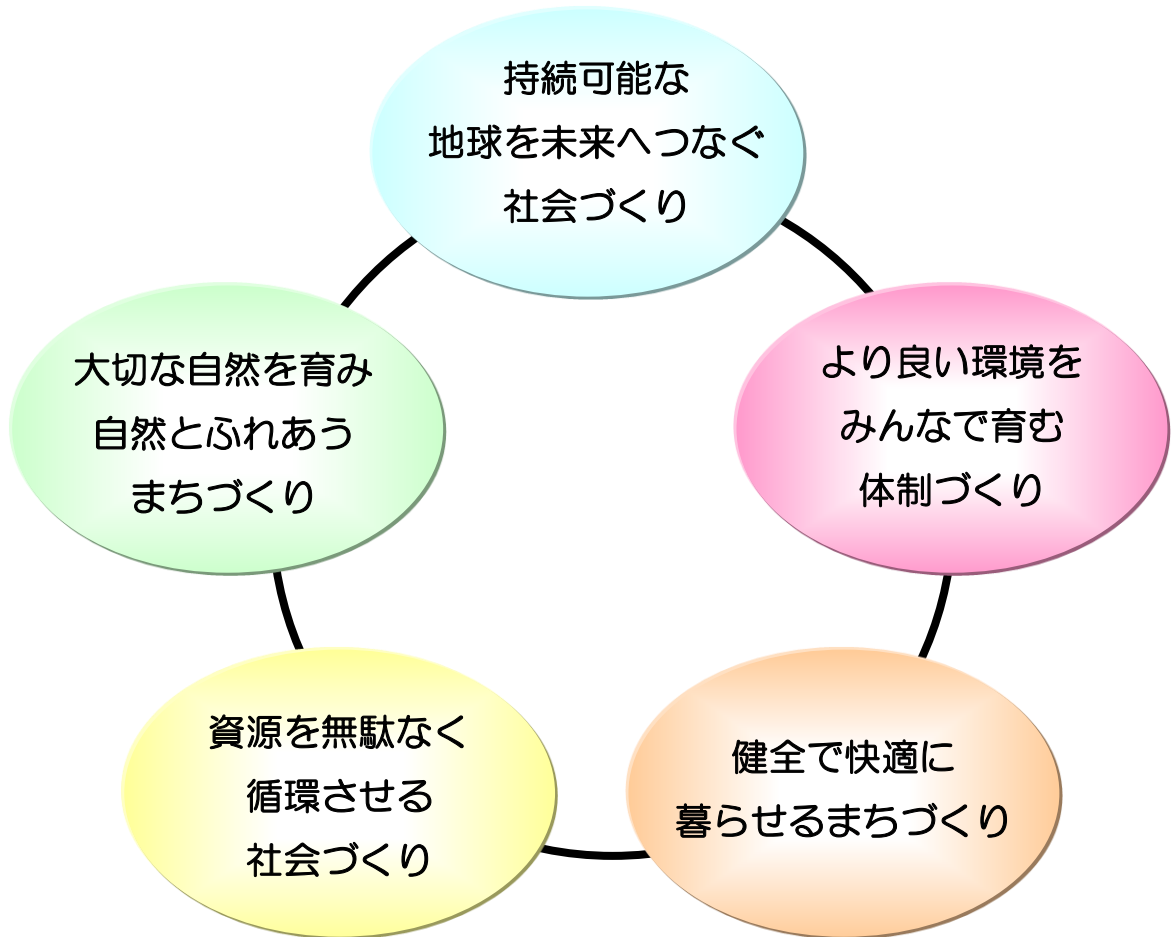


図1 5つの施策の柱

2 評価の対象

評価の対象は、船橋市環境基本計画の第5章「施策の展開」で定めた15項目の基本施策に設定した“進行管理指標”及び“個別施策”と、同計画の第6章で定めた4項目の重点的な取組における“市民の取組状況”と“事業者の取組状況”としました。

この報告書は、船橋市環境基本計画の進行管理指標に係る最新のデータ及び個別施策の進捗状況の把握のために、各課を対象として実施した「船橋市環境基本計画施策進捗状況調査」の結果と、市民及び事業者に対して実施したアンケートの結果を取りまとめたものです。

なお、実施した評価の結果については、船橋市環境審議会に報告し意見を伺うとともに、市ホームページや環境白書などで公開し、市民・事業者など各主体に意見や提言を求め、改善させていくものとしております。

3 評価方法（進行管理指標と個別施策）

基本施策毎に設定した“進行管理指標”については、把握可能な最新のデータを目標年度のデータと比較しています。

また、個別施策の担当課に対して自己評価による状況調査を実施し、以下の4段階で評価を行っております。

- | |
|---|
| 1：評価点3点……予定を上回る実施状況である。（達成率100%を超える） |
| 2：評価点2点……おおよそ予定どおりの実施状況である。（達成率80%～100%） |
| 3：評価点1点……個別施策は実施しているが遅れ又はその実施内容に進展が見られない。
（達成率60%～80%） |
| 4：評価点0点……実施予定に全く達しない状況である。（達成率60%未満） |
- ※達成率は令和3年度の目標を基準とします。

施策の進捗評価については、個別施策の評価点の平均値を記載しています。

（例）P〇〇 施策「温室効果ガスの排出量の削減」

$$\frac{3(\text{点}) \times 2(\text{個}) + 2(\text{点}) \times 2(\text{個}) + 1(\text{点}) \times 0(\text{個}) + 0(\text{点}) \times 0(\text{個})}{4(\text{個別施策総数})} = 2.5$$

基本施策毎に、状態指標を中心に施策の進捗状況と併せて総合的に評価し今後の方針を示しています。

評価基準は以下のとおりです。

- | |
|--|
| 評価S：目標年度における目標を大幅に上回る状況である。 |
| 評価A：目標年度における目標を上回る状況である。 |
| 評価B：目標年度における目標達成に向けて順調な状況である。 |
| 評価C：目標年度における目標達成に概ね順調な状況だが、一部改善の余地がある。 |
| 評価D：目標年度における目標達成に向けて遅れがみられる状況であり、必要に応じて取組等を見直す必要がある。 |
| 評価E：目標年度における目標達成が困難な状況であり、取組等を見直す必要がある。 |

なお、個別施策の評価にあたり、その取組に関する事業が実施できない理由がある場合については、評価をしておりません。

4 評価方法（重点的な取組）

重点的な取組に関連する状態指標については、把握可能な最新のデータを基準年度及び目標年度のデータと比較しています。

また、重点的な取組に関連する個別施策の進捗状況については、個別施策の進捗評価点の平均値を記載しています。

市民・事業者の取組状況の評価については、アンケート結果を以下のとおり点数化しています。

評価点3点：実践している。
評価点2点：概ね実践している。
評価点1点：あまり実践していない。
評価点0点：実践していない。

（例）P〇〇 アンケート項目：（市民）1-1 エコライフ行動

{3(点)×174(人)+2(点)×120(人)+1(点)×63(人)+0(点)×27(人)}

／384(人)=2.1

状態指標を中心に施策の進捗状況、市民・事業者の取組状況と併せて総合的に評価し今後の方針を示しています。

評価基準は以下のとおりです。

評価S：目標年度における目標を大幅に上回る状況である。
評価A：目標年度における目標を上回る状況である。
評価B：目標年度における目標達成に向けて順調な状況である。
評価C：目標年度における目標達成に概ね順調な状況だが、一部改善の余地がある。
評価D：目標年度における目標達成に向けて遅れがみられる状況であり、必要に応じて取組等を見直す必要がある。
評価E：目標年度における目標達成が困難な状況であり、取組等を見直す必要がある。

第二章

船橋市環境基本計画の進捗状況の評価

第二章 船橋市環境基本計画の進捗状況の評価 各ページの見方

施策の柱 1：持続可能な地球を未来へつなぐ社会づくり

基本施策 1：地球温暖化対策の総合的な推進

(1) 状態指標の状況

①状態指標	②基準値 (R元年度)	③現状 (R3年度)		④目標値 (R4年度)	⑤目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
市民一人当たりの温室効果ガス排出量	6.25t-CO ₂	5.08t-CO ₂	5.92t-CO ₂	5.75t-CO ₂	4.43t-CO ₂
エコライフ実践度（家庭）	52%	57.5%	55.3%	56.9%	70%
エコオフィス実践度（事業者）	39%	46.9%	44.6%	47.5%	70%
熱中症搬送者数	221人	128人	搬送者数の減少	搬送者数の減少	搬送者数の減少

①状態指標

基本施策が対象とする分野において、環境等の状態を把握するための状態指標を示しています。状態指標は施策の成果だけでなく、様々な要因によって変動する指標となります。

②基準値（R元年度）

現行の環境基本計画は令和2年度に策定しております。そのため、基本的には策定の直近の令和元年度の数値を設定しています。

③現状 現状値・目標値（R3年度）

現状値は、状態指標の直近の把握している数値となります。令和4年度の数値は令和5年度に取りまとめるため、現状値は令和4年度に取りまとめる令和3年度の数値となります。

目標値は、令和3年度の目標値を記載しています。

④目標値（R4年度）

③の目標値及び現状値の結果を踏まえた上で、翌年度である令和4年度の目標数値を設定しています。

⑤目標値（R12年度）

第3次環境基本計画の計画期間が令和3年から令和12年となっており、計画年度における状態指標の目標数値を示しています。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況（基本計画に記載した目標指標等）

①目標指標	②基準値 (R元年度)	③現状 (R3年度)		④目標値 (R4年度)	⑤目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
市の事務事業から排出される 温室効果ガス排出量	150,627t-CO ₂	133,721 t-CO ₂	145,172 t-CO ₂	142,445t-CO ₂	120,627t-CO ₂
地球温暖化に関する環境講座 実施回数	18回	10回	20回	21回	30回
樹林地の保全面積	194 ha	194 ha	200.4 ha	202 ha	236 ha
熱中症予防に関する健康教育 の実施回数	312回	1回	24回	43回	315回

①状態指標

施策に対して設定する施策の進捗状況を示す目標指標を示しています。目標指標は施策の成果を測る指標となります。

②基準値（R元年度）

現行の環境基本計画は令和2年度に策定しております。そのため、基本的には策定の直近の令和元年度の数値を設定しています。

③現状 現状値・目標値（R3年度）

現状値は、目標指標の直近の把握している数値となります。令和4年度の数値は令和5年度に取りまとめるため、現状値は令和4年度に取りまとめる令和3年度の数値となります。

目標値は、令和3年度の目標値を記載しています。

④目標値（R4年度）

③の目標値及び現状値の結果を踏まえた上で、翌年度である令和4年度の目標数値を設定しています。

⑤目標値（R12年度）

第3次環境基本計画の計画期間が令和3年から令和12年となっており、計画年度における目標指標の目標数値を示しています。

◆基本施策毎の評価

施策の柱 1：持続可能な地球を未来へつなぐ社会づくり

基本施策 1：地球温暖化対策の総合的な推進

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
市民一人当たりの温室効果ガス排出量	6.25t-CO ₂ (※1)	5.08t-CO ₂ (※2)	5.92t-CO ₂	5.75t-CO ₂	4.43t-CO ₂
エコライフ実践度(家庭)	52%(※3)	57.5%	55.3%	56.9%	70%
エコオフィス実践度(事業者)	39%(※3)	46.9%	44.6%	47.5%	70%
熱中症搬送者数	221人	128人	搬送者数の減少	搬送者数の減少	搬送者数の減少

(※1) 平成25年度実績値です。

(※2) 令和元年度実績値です。

(※3) 平成30年度実績値です。

【状態指標の状況について】

- ・市民一人当たりの温室効果ガス排出量は、目標値を達成している。
- ・エコライフ実践度は、目標値を達成している。
- ・エコオフィス実践度は、目標値を達成している。
- ・熱中症搬送者数は、基準値より大幅に減少している。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況（基本計画に記載した目標指標等）

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
市の事務事業から排出される 温室効果ガス排出量	150,627t-CO ₂ (※)	133,721 t-CO ₂	145,172 t-CO ₂	142,445t-CO ₂	120,627t-CO ₂
地球温暖化に関する環境講座 実施回数	18回	10回	20回	21回	30回
樹林地の保全面積	194 ha	194 ha	200.4 ha	202 ha	236 ha
熱中症予防に関する健康教育 の実施回数	312回	1回	24回	43回	315回

(※) 平成25年度実績値です。

●施策の進捗評価

施策	施策の 進捗評価	個別施策の数（注）				
		3～2点	2～1点	1～0点	0点	総数
温室効果ガスの排出量の削減	2.5	2	2	0	0	4
地球温暖化防止に向けた意識の向上	1.5	0	4	1	1	6
温室効果ガスの吸収源対策	1.5	0	2	1	0	3
気候変動への適応	1.9	0	9	0	0	9
総合	1.9					

(注) ○～△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点3～2点の個別施策：①公共施設におけるエコオフィス行動の実践

②市域の温室効果ガス排出量の把握及び削減

（「施策：温室効果ガスの排出量の削減」に含まれる個別施策）

評価点0点の個別施策：①船橋市地球温暖化防止活動推進員の学習会等への派遣

（「施策：地球温暖化防止に向けた意識の向上」に含まれる個別施策）

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標の状況から遅れが見られる指標が見受けられる。特に「地球温暖化に関する環境講座の実施」や、「熱中症予防に関する健康教育の実施」については、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われる。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として1.9となっており、「船橋市地球温暖化防止活動推進員の学習会等への派遣」等、遅れが見られる個別施策があるものの、「公共施設におけるエコオフィス行動の実践」等、取組が進んでいる個別施策が多く、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	<ul style="list-style-type: none">・ 温室効果ガス排出量：目標値達成状況良好。・ エコライフ実践度：目標値達成状況良好。・ エコオフィス実践度：目標値達成状況良好。・ 熱中症搬送者数：目標値達成状況良好。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.9
まとめ	遅れが見られる個別施策があるものの、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価 (状態指標の数値を中心とした評価)	評価に対するコメント
B	市民一人あたりの温室効果ガス排出量については、2030年における温室効果ガス排出量の46%削減目標(2013年比)に向けて予定を上回る進捗であり評価できる。
	エコライフ実践度(家庭)やエコオフィス実践度(事業者)は、目標値を達成しており、市民や事業者における環境に対する意識が高まっていることが見受けられる。
	熱中症搬送者数は、基準年度より大幅に減少している。熱中症警戒アラートが千葉県で発表された場合に市民への周知啓発を実施したことが、予防行動につながったと考えられる。また、熱中症予防に関する健康教育の実施は、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため実施回数を増やすことが困難であったが、リーフレットの配布等別の方法による啓発を引き続き実施していくことが望ましい。
	目標年度における目標達成に向けて順調な状況であることから評価をBとした。

基本施策 2：省エネルギーの推進

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
一世帯当たりの電力使用量	5,352kWh	3,757 kWh (※1)	3,480 kWh	3,465kWh	1,540kWh (※2)
一世帯当たりの都市ガス使用量	353 m ³ (※3)	308 m ³ (※1)	307 m ³	285 m ³	102 m ³
エコドライブの実践割合(定期アンケート調査による)	64% (※1)	72%	67%	68%	80%

(※1) 令和元年度実績値です。

(※2) 船橋市地球温暖化対策実行計画において目標値の見直しを行ったため、本計画においても数値を変更しています。

(※3) 平成30年度実績値です。統計上の数値の変更があります。

【状態指標の状況について】

- ・一世帯当たりの電力使用量は、目標値を達成していない。
- ・一世帯当たりの都市ガス使用量は、目標値を僅かに達成していない。
- ・エコドライブの実践割合は、目標値に達成している。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況（基本計画に記載した目標指標等）

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
家庭における高効率給湯器の導入累計件数	719件	976件	934件	1,041件	1,900件
緑のカーテン育成アンケート提出者数	161人	209人	186人	199人	300人

●施策の進捗評価

施 策	施策の 進捗評価	個別施策の数（注）				総数
		3～2点	2～1点	1～0点	0点	
省エネルギー設備・機器の 普及推進	1.7	0	4	2	0	6
省エネルギー型の建築物の 普及推進	2.0	0	4	0	0	4
エネルギーマネジメントの 推進	2.7	2	1	0	0	3
市民・事業者に対する理解 ・意識啓発の推進	1.8	0	5	1	0	6
総合	2.1					

（注）○～△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点 3～2 点の個別施策：①公共施設におけるビルエネルギーマネジメントシステムの導入検討
②エネルギー需要特性に応じた電気・熱利用の検討
（「施策：エネルギーマネジメントの推進」に含まれる個別施策）

評価点 0 点の個別施策：該当なし

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標の状況では、ある程度予定に即した形で進行していると見受けられる。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として2.1となっており、少し遅れが見られる個別施策があるものの、「公共施設におけるビルエネルギーマネジメントシステムの導入検討」等、取組が進んでいる個別施策が多く、ある程度予定に即した形で施策進行しているものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	<ul style="list-style-type: none">・一世帯当たりの電力使用量：目標値未達成。・一世帯当たりの都市ガス使用量：目標値未達成。・エコドライブの実践割合：目標値達成状況良好。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	2.1
まとめ	遅れが見られる個別施策があるものの、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	一世帯当たりの電力使用量や都市ガス使用量の削減については、目標を達成していない。施策の取組はある程度予定に則した進捗を行っているが、状態指標の数値から、更なる取組についても、今後検討・実施していくことが望まれる。
C	エコドライブの実践については、目標値を達成しているため、各施策の取組が進んでいるものと見受けられ評価できる。 目標年度における目標達成に向けて少し遅れが見られる指標もあることから評価をCとした。

基本施策 3：創エネルギーの推進

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
市内における太陽光発電システム設置容量(※1)	57,784 kW	60,540 kW	61,358 kW	65,346kW	97,250 kW (※2)

(※1) 家庭における太陽光発電の容量です。

(※2) 船橋市地球温暖化対策実行計画において目標値の見直しを行ったため、本計画においても数値を変更しています。

【状態指標の状況について】

- ・太陽光発電システム設置容量は、目標値に達していない。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況（基本計画に記載した目標指標等）

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
公共施設におけるバイオマス燃料の発電容量	11,230 kW	17,950 kW	11,230 kW	19,120 kW	19,120 kW

●施策の進捗評価

施策	施策の 進捗評価	個別施策の数(注)				
		3~2点	2~1点	1~0点	0点	総数
再生可能エネルギーの導入 推進	1.7	0	5	1	0	6
温室効果ガスの排出量の少 ないエネルギーへの転換	1.7	0	2	1	0	3
総合	1.7					

(注) ○~△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点 3~2 点の個別施策： 該当なし

評価点 0 点の個別施策： 該当なし

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標における「公共施設におけるバイオマス燃料の発電容量」は、目標値を大幅に上回る状況で進行していると見受けられる。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として 1.7 となっており、遅れが見られる個別施策があるもの

の、取組が進んでいる個別施策が多く、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	・ 太陽光発電システム設置容量：目標値未達成
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.7
まとめ	遅れが見られる個別施策があるものの、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価 (状態指標の数値を中心とした評価)	評価に対するコメント
C	太陽光発電システム設置費の補助を実施してきたところだが、市内における太陽光発電システム設置容量は、目標値に達していないが、公共施設におけるバイオマス燃料の発電容量について目標を達している。今後は特に再生エネルギーの導入推進について、市民への更なる周知を図る取組を今後検討・実施していくことが望まれる。
	目標年度における目標達成に向けて少し遅れが見られる状況であることから評価をCとした。

施策の柱2：大切な自然を育み、自然とふれあうまちづくり

基本施策4：親しみやすい水辺の創出

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
水辺を身近に感じる市民の割合（定期アンケート調査による）	調査実施前	37.5% (※1)	— (※2)	— (※3)	割合の向上 (調査毎)

(※1) 令和4年度に実施したアンケートの値です。

(※2) 初めてアンケートを実施したため目標値は未設定です。

(※3) アンケートは隔年で実施するため、目標設定は行いません。

【状態指標の状況について】

- ・水辺を身近に感じる市民の割合は、初めてのアンケート調査により状態を確認した。今後、割合が増えるよう各施策を取り組む必要がある。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況（基本計画に記載した目標指標等）

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
水辺空間の整備箇所数	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	5箇所
ふなばし三番瀬環境学習館の総利用者数	45,613人	59,867人	47,600人	49,600人	67,000人

●施策の進捗評価

施策	施策の 進捗評価	個別施策の数（注）				
		3～2点	2～1点	1～0点	0点	総数
身近な水辺の維持・管理、利用推進	1.6	2	1	1	1	5
海辺とふれあう場の創出、利用促進	1.9	0	2	0	0	2
総合	1.8					

（注）○～△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点3～2点の個別施策：①湧水の維持・管理・再生

②海辺空間の保全に対する意識啓発

（「施策：身近な水辺の維持・管理、利用推進」に含まれる個別施策）

評価点 0 点の個別施策 : ①流域協議会作成の流域マップ配布による散策路等の広報
 (「施策：身近な水辺の維持・管理、利用推進」に含まれる個別施策)

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標の状況では、ある程度予定に即した形で進行していると見受けられる。特に「ふなばし三番瀬環境学習館の総利用者数」は、目標値を大幅に上回る状況である。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として 1.8 となっており、「流域協議会作成の流域マップ配布による散策路等の広報」等、遅れが見られる個別施策があるものの、「湧水の維持・管理・再生」等、取組が進んでいる個別施策が多く、ある程度予定に即した形で施策進行しているものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	・水辺を身近に感じる市民の割合：アンケート回答者の 4 割弱。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.8
まとめ	遅れが見られる個別施策があるものの、ある程度予定に即した形で施策進行しているものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価 (状態指標の数値を中心とした評価)	評価に対するコメント
C	水辺を身近に感じる市民の割合が増えるよう、水辺に親しめる公園緑地等の整備の検討や、船橋市の親水空間について各種媒体により更なる周知を行うなど、取組を進めていくことが望まれる。
	水辺を身近に感じる市民の割合は初めての市民アンケート調査によることから基準値や目標値の設定がないため初年度における評価として C とした。

基本施策5：まちの緑の育成

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
市民一人当たりの都市公園面積	3.35 m ² /人	3.39 m ² /人	3.42 m ² /人	3.45 m ² /人	3.87 m ² /人
みどりに対する満足度(定期アンケート調査による)	調査実施前	63.5% (※1)	— (※2)	— (※3)	満足度の向上 (調査毎)

(※1) 令和4年度に実施したアンケートの値です。

(※2) 初めてアンケートを実施したため目標値は未設定です。

(※3) アンケートは隔年で実施するため、目標設定は行いません。

【状態指標の状況について】

- ・市民一人当たりの都市公園面積は、目標値に達していない。
- ・みどりに対する満足度は、初めてのアンケート調査により状態を確認した。今後、割合が増えるよう各施策を取り組む必要がある。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況(基本計画に記載した目標指標等)

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
都市公園の総面積	216ha	219.1ha	220.4ha	222.1ha	244ha
ふれあい花壇事業実施箇所	99箇所	97箇所	99箇所	103箇所	134箇所

●施策の進捗評価

施策	施策の 進捗評価	個別施策の数(注)				総数
		3~2点	2~1点	1~0点	0点	
公園、緑地の整備	1.8	0	6	2	0	8
緑化の推進	1.6	0	4	3	0	7
総合	1.7					

(注) ○~△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点3~2点の個別施策： 該当なし

評価点0点の個別施策： 該当なし

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標の状況から遅れが見られる指標が見受けられる。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として1.7となっており、遅れが見られる個別施策があるものの、取組が進んでいる個別施策が多く、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人当たりの都市公園面積：目標値未達成。 ・みどりに対する満足度：アンケート回答者の半数以上が満足していると回答。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.7
まとめ	遅れが見られる個別施策があるものの、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	<p>市民一人当たりの都市公園面積は、目標値に達していないため、市内において不足している地域を優先的に公園の整備を進めていくことが望まれる。</p> <p>みどりに対する満足度については、アンケート回答者の半数以上が満足していると回答しているが、引き続き、公園や緑地の整備を進めていくことが望ましい。</p> <p>目標年度における目標達成に向けて少し遅れが見られる状況であることから評価をCとした。</p>
C	

基本施策 6：多様な生態系の保全

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
動植物の生息地又は生育地となり得る緑地等の割合	25% (※1)	— (※2)	現状維持	現状維持	現状維持
生物多様性の認知度 (※3) (定期アンケート調査による)	調査実施前	40.6% (※4)	— (※5)	— (※6)	認知度の向上 (調査毎)

(※1) 基準値は平成28年度の実績値です。

(※2) 未確定です。

(※3) 言葉の意味まで理解している人の割合です。

(※4) 令和4年度に実施したアンケートの値です。

(※5) 初めてアンケートを実施したため目標値は未設定です。

(※6) アンケートは隔年で実施するため、目標設定は行いません。

【状態指標の状況について】

- ・生物多様性を認知する市民の割合は、初めてのアンケート調査により状態を確認した。今後、割合が増えるよう各施策を取り組む必要がある。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況（基本計画に記載した目標指標等）

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
多自然川づくり整備延長	5,110m	5,110m	5,110m	5,110m	6,560m
ふなばし三番瀬クリーンアップ参加人数	722人	466人	750人	800人	1,000人
樹林地の保全面積 ★再掲	194ha	194ha	200.4ha	202ha	236ha
援農ボランティアの会員数	48人	49人	58人	68人	会員数の増加
指標種のモニタリング調査報告件数	実施前	32件	30件	60件	300件

● 施策の進捗評価

施策	施策の進捗評価	個別施策の数（注）				
		3～2点	2～1点	1～0点	0点	総数
多自然川づくりの推進	1.8	0	4	0	0	4
干潟の保全・再生	1.5	0	4	1	1	6
樹林地の保全	2.0	0	5	0	0	5
農地の保全	1.6	0	4	3	0	7
動植物の生息環境の確保	1.5	0	3	2	0	5
総合	1.6					

（注）○～△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点 3～2 点の個別施策： 該当なし

評価点 0 点の個別施策： ①海苔養殖、アサリ漁業などに関する講座・漁業体験等の実施
（「施策：干潟の保全・再生」に含まれる個別施策）

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標の状況から遅れが見られる指標が見受けられる。特に「ふなばし三番瀬クリーンアップ参加人数」の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われる。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として 1.6 となっており、ある程度予定に則した形で施策進行している個別施策があるものの、「海苔養殖、アサリ漁業などに関する講座・漁業体験等の実施」等、遅れが見られるため改善が必要である。

（3）評価

状態指標の状況	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の生息地又は生育地となり得る緑地等の割合：未確定 ・生物多様性の認知度：アンケート回答者の約 4 割が認知。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.6
まとめ	ある程度予定に則した形で施策進行している個別施策があるものの、遅れている個別施策も見られる。
評価と評価に対するコメント	
評価 （状態指標の数値を中心とした評価）	評価に対するコメント
C	<p>動植物の生息地又は生育地となり得る緑地等の割合を維持することが重要である。併せて</p> <p>生物多様性を認知する市民の割合は、アンケート回答者のうち約 4 割であった。環境フェアなどのイベントや講習会、各種啓発媒体により認知度を高めていく施策の検討を行い実施することが望ましい。</p> <p>生物多様性の認知度は初めての市民アンケート調査によることから基準値や目標値の設定がないため初年度における評価として C とした。</p>

基本施策 7：自然の恵みの持続的な活用

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
レクリエーション施設等利用者数(※)	830,809人	611,790人	700,000人	700,000人	利用者数の増加
地場食材を意識して購入している市民の割合(定期アンケート調査による)	61.1%	61%	63%	64%	70%

(※) 数値は、アンデルセン公園、海浜公園、潮干狩りの利用者数(1月～12月)の合計であり、県で発表している「千葉県観光入込調査報告書」の「スポーツ・レクリエーション施設観光入込客数」にあたり、同報告書内の観光地点入込客数とは異なる。(県の観光地点入込客数は、上記施設にサッポロビール千葉工場の入込客数を含む。)

【状態指標の状況について】

- ・レクリエーション施設等利用者数は、基準値より大幅に減少している。
- ・地場食材の購入割合は、基準値より僅かに減少している。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況(基本計画に記載した目標指標等)

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
農地を活用した地域防災訓練回数(累計)	1回	1回	1回	2回	12回
地場産物の食材を活用した「食に関する指導」の授業を実施した学校の割合	61%	60%	70%	70%	100%

●施策の進捗評価

施策	施策の進捗評価	個別施策の数（注）				総数
		3～2点	2～1点	1～0点	0点	
水辺や緑の多面的機能の利活用推進	2.0	0	3	0	0	3
水と緑のネットワークの活用	1.5	0	4	2	0	6
地産地消、食育の推進	1.3	0	3	2	1	6
総合	1.5					

（注）○～△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点 3～2 点の個別施策： 該当なし

評価点 0 点の個別施策： ①食の安全確保に向けた衛生教育（消費者・食品事業者）の推進
（「施策：地産地消、食育の推進」に含まれる個別施策）

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標の状況から遅れが見られる指標が見受けられる。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として 1.5 となっており、ある程度予定に則した形で施策進行している個別施策があるものの、「食の安全確保に向けた衛生教育（消費者・食品事業者）の推進」等、遅れが見られるため改善が必要である。

（3）評価

状態指標の状況	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション施設等利用者数：目標値未達成。 ・地場食材の購入割合：目標値未達成。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.5
まとめ	ある程度予定に則した形で施策進行している個別施策があるものの、遅れている個別施策も見られる。
評価と評価に対するコメント	
評価 (状態指標の数値を中心とした評価)	評価に対するコメント
D	<p>豊かな生態系を育み、気候変動を緩和するレクリエーションの場としてレクリエーション施設等の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われ大幅に減少している。</p> <p>地場食材を意識して購入している市民の割合については、目標値に達していません。各施策についても一部遅れが見られる。新型コロナウイルス感染症の影響により、地場野菜即売会等の取組を中止せざるを得なかった。</p> <p>目標年度における目標達成に向けて遅れが見られる状況であることから評価をDとした。</p>

施策の柱3：資源を無駄なく循環させる社会づくり

基本施策8：循環型社会の推進

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
リサイクル率	21.6%	22.8%	27.0%	23.3%	29.4%
最終処分量	7,729 t	7,829 t	10,000 t	7,400 t	6,118 t
ごみの総排出量	204,788 t	199,387 t	194,300 t	201,551 t	184,393 t

【状態指標の状況について】

- ・リサイクル率は、基準値より割合が増えているが目標値に達成していない。
- ・最終処分量は、基準値より若干増加しているが、目標値を達成している。
- ・ごみの総排出量は、基準値より減少しているものの目標値を達成していない。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況（基本計画に記載した目標指標等）

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
食品ロス削減に取り組む「ふなR連携事業者」数	3件	3件	10件	10件	28件
スマートフォン向けごみ分別アプリ累計ダウンロード数	19,425件	33,410件	36,000件	41,000件	66,000件

●施策の進捗評価

施 策	施策の 進捗評価	個別施策の数（注）				総数
		3～2点	2～1点	1～0点	0点	
ごみの排出抑制	1.1	0	4	3	3	10
資源化の推進	1.0	1	2	3	4	10
廃プラスチック対策の推進	2.0	2	3	2	0	7
総合	1.3					

（注）○～△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点 3～2 点の個別施策：①資源物の収集や再利用状況、ごみ処理に係る補助制度の情報提供
（「施策：資源化の推進」に含まれる個別施策）

②ポイ捨て防止の徹底によるまちの美化推進

③環境への影響が少ない素材（海洋生分解性プラスチック、紙等）への転換推進

（「廃プラスチック対策の推進」に含まれる個別施策）

評価点 0 点の個別施策：①大規模事業者に対する廃棄物減量等計画書の作成及び廃棄物管理責任者の選任の指導

②イベントにおけるごみの減量・資源化推進の呼びかけ

③船橋市廃棄物減量等推進員（クリーン船橋 530 推進員）の委嘱
（「施策：ごみの排出抑制」に含まれる個別施策）

④市民団体などによる自発的な有価物・資源物回収の推進

⑤廃棄物処理施設の見学などを通じたごみの資源化意識の向上

⑥ふれあい収集の推進・拡充

⑦事業系食品廃棄物等の資源化推進

（「施策：資源化の推進」に含まれる個別施策）

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標の状況から遅れが見られる指標が見受けられる。「食品ロス削減に取り組む「ふなR連携事業者」は、特に遅れが見られるため改善が必要である。また、「大規模事業者に対する廃棄物減量等計画書の作成及び廃棄物管理責任者の選任の指導」、「イベントにおけるごみの減量・資源化推進の呼びかけ」、「船橋市廃棄物減量等推進員（クリーン船橋 530 推進員）の委嘱」、「市民参加型のごみの減量・資源化のシステムづくり推進」については、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われる。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として1.3となっており、「資源物の収集や再利用状況、ごみ処理に係る補助制度の情報提供」等、ある程度予定に則した形で施策進行している個別施策があるものの、遅れが見られる個別施策が多いため改善が必要である。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	<ul style="list-style-type: none">・リサイクル率：目標値未達成。・最終処分量：目標値達成状況良好。・ごみの総排出量：目標値未達成。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.3
まとめ	ある程度予定に則した形で施策進行している個別施策があるものの、遅れている個別施策も多く見られる。
評価と評価に対するコメント	
評価 (状態指標の数値を中心とした評価)	評価に対するコメント
D	リサイクル率やごみの総排出量等は、目標値に達していなく、各施策の進捗においても遅れが見受けられる。各種発行物・イベントを通じて市民への周知啓発を実施しているところだが、更なる取組についても今後検討・実施していくことが望まれる。
	目標年度における目標達成に向けて遅れが見られる指標もあることから評価をDとした。

基本施策 9：廃棄物の適正処理の推進

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
産業廃棄物の不法投棄覚知件数	31件(※)	21件	29件	28件	20件

(※) 前3か年の平均値

【状態指標の状況について】

- ・不法投棄の覚知件数は基準値より大幅に減少し、目標値を達成している。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況（基本計画に記載した目標指標等）

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
マニフェスト(※)の電子化率	63%	68.86%	68%	70%	80%

(※) マニフェスト制度は産業廃棄物の適正処理の確保を目的としており、紙と比較して電子マニフェストはデータの透明性が確保され、法令遵守を徹底することができます。

●施策の進捗評価

施策	施策の 進捗評価	個別施策の数(注)				
		3~2点	2~1点	1~0点	0点	総数
産業廃棄物の適正処理	2.0	0	5	0	0	5
不法投棄防止対策の強化	2.2	1	2	0	0	3
災害廃棄物の適正処理	2.0	0	1	0	0	1
総合	2.1					

(注) ○~△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点 3~2 点の個別施策：①広報紙・パンフレット、看板設置等による不法投棄防止のPR
(「施策：不法投棄防止対策の強化」に含まれる個別施策)

評価点 0 点の個別施策：該当なし

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標の状況では、ある程度予定に即した形で進行していると見受けられる。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として2.1となっており、「広報紙・パンフレット、看板設置等による不法投棄防止のPR」等、取組が進んでいる個別施策が多く、ある程度予定に即した形で施策進行しているものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	・ 産業廃棄物の不法投棄覚知件数：目標値達成状況良好。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	2.1
まとめ	ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価 (状態指標の数値を中心とした評価)	評価に対するコメント
B	産業廃棄物の不法投棄覚知件数は、年度毎の変動が大きいものではあるが、評価時点においては予定を上回る進捗である。パトロールによる監視体制の充実や、情報収集体制の強化、パンフレット等の配布による啓発といった施策の取組が進んでおり評価できる。
	目標年度における目標達成に向けて順調な状況であることから評価をBとした。

施策の柱4：健全で快適に暮らせるまちづくり

基本施策10：良好な大気の保全

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
二酸化窒素の県環境目標値の達成率	100% (8地点/8地点)	100% (8地点/8地点)	100% (8地点/8地点)	100% (8地点/8地点)	100% (8地点/8地点)
浮遊粒子状物質に関する環境基準の達成率(一般局(※1))	100% (8地点/8地点)	100% (8地点/8地点)	100% (8地点/8地点)	100% (8地点/8地点)	100% (8地点/8地点)
浮遊粒子状物質に関する環境基準の達成率(自排局(※2))	100% (2地点/2地点)	100% (2地点/2地点)	100% (2地点/2地点)	100% (2地点/2地点)	100% (2地点/2地点)
光化学スモッグ注意報発令回数	4回/年	3回/年	0回/年	0回/年	0回/年
エコドライブの実践割合 (定期アンケート調査による) ★再掲	64%(※3)	72.6%	67%	68%	80%
公共交通機関の一日当たり利用者数	71,739人/日	52,282人/日	71,739人/日	71,739人/日	現状維持

(※1) 一般環境大気測定局のことで、大気汚染状況を常時監視する測定局です。

(※2) 自動車排出ガス測定局のことで、自動車排出ガスによる環境大気汚染状況を常時監視する測定局です。

(※3) 平成30年度実績値です。

【状態指標の状況について】

- ・大気環境は、いずれも目標値に達成している。
- ・光化学スモッグ注意報が発令している状況である。
- ・エコドライブの実践割合は、目標値に達成している。
- ・公共交通機関の一日当たり利用者数は、基準年度より減少している。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況（基本計画に記載した目標指標等）

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
VOC(揮発性有機化合物)排出量	206t/年	376t/年	206t/年	200t/年	現状維持
自転車走行環境整備率	34.8%	48.3%	48%	49%	100%

●施策の進捗評価

施策	施策の 進捗評価	個別施策の数(注)				
		3~2点	2~1点	1~0点	0点	総数
大気への環境負荷の低減	2.0	0	2	0	0	2
自動車交通需要の抑制	1.4	0	3	1	1	5
大気汚染状況の監視	2.0	0	3	0	0	3
総合	1.8					

(注) ○～△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点3～2点の個別施策： 該当なし

評価点0点の個別施策： ①公共交通機関（路線バス等）の利用促進

（「施策：自動車交通需要の抑制」に含まれる個別施策）

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標の状況から遅れが見られる指標が見受けられる。「VOC(揮発性有機化合物)排出量」は、遅れが見られるため、改善が必要である。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として1.8となっており、「公共交通機関（路線バス等）の利用促進」等、遅れが見られる個別施策があるものの、取組が進んでいる個別施策が多く、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気環境：目標達成状況良好。 ・ 光化学スモッグ注意報発令回数：目標値未達成。 ・ エコドライブの実践割合：目標達成状況良好。 ・ 公共交通機関の一日当たり利用者数：目標値未達成。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.8
まとめ	遅れが見られる個別施策があるものの、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	<p>大気環境は、エコドライブの実践については目標値を達成しており各施策の取組が進んでいることから良好な状況で、一定の大気環境であると評価できる。</p> <p>公共交通機関の一日当たり利用者数の減少は、新型コロナウイルスの影響により外出が減少し、また、車での移動が増加したものと思われる。引き続き、公共交通機関（路線バス等）の利用促進策や自転車走行空間整備など自転車の利用促進を検討し事業を進めていくことが望まれる。</p> <p>目標年度における目標達成に向けて概ね順調な状況だが、一部遅れが見られる指標もあることから評価をCとした。</p>
C	

基本施策 11：健全な水環境の保全

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
BOD(※)の環境基準達成率 (河川)	100% (5地点/5地点)	100% (5地点/5地点)	100% (5地点/5地点)	100% (5地点/5地点)	100% (5地点/5地点)
海老川流域におけるBOD濃度 3mg/L以下達成率	30% (3地点/10地点)	70% (7地点/10地点)	100% (10地点/10地点)	100% (10地点/10地点)	100% (10地点/10地点)
印旛沼流域におけるBOD濃度 3mg/L以下達成率	67% (2地点/3地点)	67% (2地点/3地点)	100% (3地点/3地点)	100% (3地点/3地点)	100% (3地点/3地点)
COD(※)の環境基準達成率 (海域)	75% (3地点/4地点)	75% (3地点/4地点)	100% (4地点/4地点)	100% (4地点/4地点)	100% (4地点/4地点)
全窒素の環境基準達成率(海域)	75% (3地点/4地点)	50% (2地点/4地点)	100% (4地点/4地点)	100% (4地点/4地点)	100% (4地点/4地点)
全りんの環境基準達成率(海域)	50% (2地点/4地点)	50% (2地点/4地点)	100% (4地点/4地点)	100% (4地点/4地点)	100% (4地点/4地点)
青潮等の年間発生回数	2回	4回	0回	0回	0回

(※) 水の汚れを分解する際に必要となる酸素量のこと、水の汚れを示す代表的な指標です。

【状態指標の状況について】

- ・河川環境は、BODの環境基準達成率が目標値に達成しており、一定の水環境であると見受けられるものの海老川流域、印旛沼流域ともに目標としているBOD 3mg/L以下を達成していない地点があり、更なる改善の余地がある。
- ・海域環境は、COD・全窒素・全りんにおいて、環境基準値を満たしていない地点があり、改善の余地がある。全窒素については、基準年度より数値が低下している。
- ・青潮が発生している状況である。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況（基本計画に記載した目標指標等）

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
公共下水道普及率	88.4%	90.4%	普及率の向上	普及率の向上	普及率の向上
高度処理型合併処理浄化槽の普及率	26.5%	31%	32%	35%	60%
流域貯留浸透事業に基づいて整備した雨水貯留浸透施設の整備率	57%	57%	57%	57%	67%

●施策の進捗評価

施策	施策の 進捗評価	個別施策の数（注）					総数
		3～2点	2～1点	1～0点	0点		
流域の水環境への負荷低減	1.8	0	6	2	0	8	
海域・湖沼の富栄養化防止	1.0	0	0	3	0	3	
水質汚濁状況の監視	2.0	0	2	0	0	2	
土壌汚染の防止	2.0	0	5	0	0	5	
良質な地下水の確保	1.8	1	4	0	1	6	
総合	1.7						

（注）○～△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点 3～2 点の個別施策：①雨水浸透柵設置等整備の推進

（「施策：良質な地下水の確保」に含まれる個別施策）

評価点 0 点の個別施策：①雨水利用設備を使用した雨水の有効利用

（「施策：良質な地下水の確保」に含まれる個別施策）

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標の状況では遅れが見られる指標があるが、全体的に施策はある程度予定に即した形で進行していると見受けられる
- ・施策の進捗評価から、総合評価として 1.7 となっており、「雨水利用設備を使用した雨水の有効利用」等、遅れが見られる個別施策があるものの、「雨水浸透柵設置等整備の推進」等、取組が進んでいる個別施策が多く、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・河川環境：BOD 環境基準達成率良好。目標 BOD 濃度に未達地点有り。 ・海域環境：COD・全窒素・全りんにおいて環境基準値未達地点有り。 <p>また、青潮が4回発生。</p>
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.7
まとめ	遅れが見られる個別施策があるものの、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	<p>河川環境においては、BOD が良好なことから、一定の水環境であると評価できるが、海老川流域・印旛沼流域の河川における BOD 目標値未達の地点があることから、河川環境向上に向けた更なる取組についても、今後検討・実施していくことが望まれる。</p> <p>海域環境については、施策は一部施策に遅れがあるもののある程度予定に則した進捗だが、状態指標から良好な状態ではないと見受けられる。しかしながら、東京湾への流入自治体が本市だけでなく、また複雑な地形要因等が海域の水環境に関与していることから、現状から急激な改善は難しいと考えられるため、当面は引続き、各施策を確実に実施し、経過を観察していくことが望ましい。</p> <p>目標年度における目標達成に向けて遅れが見られる指標もあることから評価をDとした。</p>
D	

基本施策 12：快適な生活環境の保全

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
幹線道路に面する地域の騒音環境基準達成状況	89.9%	88.4%	90.5%	91%	達成率の向上
公害苦情件数(※)	166件 (38件)	275件	150件	150件	150件 (30件)
交通事故発生件数	1,469件	1,234件	件数の減少	件数の減少	件数の減少

(※) 基準値のカッコ内の数値は公害等調整委員会への報告件数(前3か年の平均値)です。令和2年度以降は見直しにより、受け付けた苦情は全て公害等調整委員会へ報告することとしているため、基準値と目標値(令和12年度)を変更しています。カッコ内の数値は変更前のものです。

【状態指標の状況について】

- ・ 幹線道路に面する地域の騒音環境基準達成率は、基準値より低下している。
- ・ 公害苦情件数は、基準値より大幅に増加しているため改善の必要がある。
- ・ 交通事故発生件数は基準値より減少している。

(2) 施策の進捗状況

● 目標指標の状況(基本計画に記載した目標指標等)

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
排水性舗装の整備実績	累計 130,059 m	172m	150m	0m	整備実績の増加
特定粉じん排出等作業の違反事例件数	0件	0件	0件	0件	0件
駅前等清掃業務委託での回収ごみ量	30,050 kg	24,100 kg	26,800 kg	25,300 kg	16,200 kg
都市計画道路整備率	44.7%	45.1%	45.1%	45.1%	整備率の向上

●施策の進捗評価

施 策	施策の 進捗評価	個別施策の数（注）				総数
		3～2点	2～1点	1～0点	0点	
騒音・振動、悪臭等の防止	1.9	1	6	0	1	8
様々な環境リスクへの対応	1.7	0	5	0	1	6
良好な景観形成の推進	1.6	0	3	2	0	5
快適な都市空間の創出	1.7	1	7	2	1	11
総合	1.7					

（注）○～△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点 3～2 点の個別施策：①道路交通騒音・振動などの現状把握及び要請限度に基づく措置

（「施策：騒音・振動、悪臭等の防止」に含まれる個別施策）

②放置自転車対策（撤去の強化）

（「施策：快適な都市空間の創出」に含まれる個別施策）

評価点 0 点の個別施策：①排水性舗装など騒音低減効果のある道路舗装の導入推進

（「施策：騒音・振動、悪臭等の防止」に含まれる個別施策）

②PRTR 制度を活用した化学物質による環境リスクの把握・情報提供

（「施策：様々な環境リスクへの対応」に含まれる個別施策）

③都市計画道路等の整備

（「施策：快適な都市空間の創出」に含まれる個別施策）

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標の状況からも施策はある程度予定に則した形で進行していると見受けられる。特に「駅前等清掃業務委託での回収ごみ量」は、目標を大幅に上回る進捗である。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として1.7となっており、「排水性舗装など騒音低減効果のある道路舗装の導入推進」等、遅れが見られる個別施策があるものの、「道路交通騒音・振動などの現状把握及び要請限度に基づく措置」等、取組が進んでいる個別施策が多く、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音環境基準の達成率：目標値未達成。 ・公害苦情件数：目標値未達成。 ・交通事故発生件数：目標値達成状況良好。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.7
まとめ	遅れが見られる個別施策があるものの、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	<p>幹線道路に面する地域の騒音環境基準達成状況は、基準値よりも低下していることから、騒音環境改善に向けた取組について今後検討・実施していくことが望まれる。</p> <p>公害苦情件数は、基準値より大幅に増加し良好な状態ではないと見受けられる。しかしながら、公害は様々な要因によるものであり、急激な改善は難しいと考えられるため、当面は引き続き、各施策を確実に実施し、経過を観察していくことが望ましい。</p> <p>交通事故発生件数は、基準値より減少しているため評価できる。引き続き施策を取り組んでいくことが望まれる。</p> <p>目標年度における目標達成に向けて遅れが見られる指標もあることから評価をDとした。</p>
D	

施策の柱5：より良い環境をみんなで育む体制づくり

基本施策13：船橋の環境を担う「ひと」づくり

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
環境問題に関心を持っている人の割合(定期アンケート調査による)	調査実施前	92.4% (※1)	— (※2)	— (※3)	100%

(※1) 令和4年度に実施したアンケートの値です。

(※2) 初めてアンケートを実施したため目標値は未設定です。

(※3) アンケートは隔年で実施するため、目標設定は行いません。

【状態指標の状況について】

- ・環境問題に関心を持っている人の割合は、初めてのアンケート調査により状態を確認した。今後、更に割合が増えるよう各施策を取り組む必要がある。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況(基本計画に記載した目標指標等)

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
小学校の校外学習での環境に関する教育施設の使用率	100%	90.9%	100%	100%	100%
ふなばしエコカレッジ卒業生数(毎年度)	実施前	実施前	実施前	30人	45人
ふなばし環境フェア参加人数	2,400人	548人	825人	1,200人	3,000人
ふなばし三番瀬環境学習館で実施する野外ワークショップの参加人数	2,404人	1,451人	2,420人	2,440人	2,600人
指定・登録文化財の数	52件	49件	49件	49件	現状維持

●施策の進捗評価

施策	施策の進捗評価	個別施策の数（注）				総数
		3～2点	2～1点	1～0点	0点	
環境教育の推進	2.0	0	4	0	0	4
環境リーダーの育成	2.0	0	3	0	0	3
環境学習の場所・機会の提供	1.7	0	4	2	0	6
自然とふれあう機会の創出	1.8	0	5	1	0	6
伝統・文化とふれあう機会の創出	1.8	0	2	0	0	2
総合	1.9					

（注）○～△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点 3～2 点の個別施策： 該当なし

評価点 0 点の個別施策： 該当なし

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標の状況から遅れが見られる指標が見受けられる。特に「ふなばし環境フェア参加人数」や、「ふなばし三番瀬環境学習館で実施する野外ワークショップの参加人数」の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われる。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として 1.9 となっており、遅れが見られる個別施策があるものの、取組が進んでいる個別施策が多く、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。

（3）評価

状態指標の状況	
まとめ	・環境問題に関心を持っている人の割合：アンケート回答者の9割以上。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.9
まとめ	遅れが見られる個別施策があるものの、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価 (状態指標の数値を中心とした評価)	評価に対するコメント
C	環境問題に関心を持っている人の割合については、アンケート回答者の9割以上であった。新型コロナウイルスの影響で環境フェア等のイベント参加者数が減少してしまったが、参加者数の増加に向けて様々な啓発媒体を用いて市民への周知を図るなど、環境問題に対する関心を更に高める取組を実施していくことが望ましい。
	環境問題に関心を持っている人の割合は初めての市民アンケート調査によることから基準値や目標値の設定がないため初年度における評価としてCとした。

基本施策 14：船橋の環境を育む「つながり」づくり

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
環境問題に関心を持っている人の割合(定期アンケート調査による) ★再掲	調査前	92.4% (※1)	— (※2)	— (※3)	100%

(※1) 令和4年度に実施したアンケートの値です。

(※2) 初めてアンケートを実施したため目標値は未設定です。

(※3) アンケートは隔年で実施するため、目標設定は行いません。

【状態指標の状況について】

- ・環境問題に関心を持っている人の割合は、初めてのアンケート調査により状態を確認した。今後、更に割合が増えるよう各施策を取り組む必要がある。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況(基本計画に記載した目標指標等)

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
環境新聞「エコふなばし」発行回数	1回	1回	1回	2回	3回
クリーン船橋 530 の日参加人数	7,666人	5,380人	8,200人	8,500人	11,000人

●施策の進捗評価

施策	施策の進捗評価	個別施策の数（注）				総数
		3～2点	2～1点	1～0点	0点	
環境情報の提供	2.0	0	5	0	0	5
人の交流や情報交換による環境保全活動の活発化	1.7	2	2	4	0	8
総合	1.9					

（注）○～△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点 3～2 点の個別施策：①自然科学研究所等を対象とした立地及び設備投資に対する補助制度の実施

②「ふなばし夏のボランティア体験」や「市民活動フェア」への参加・出展の呼びかけ

（「施策：人の交流や情報交換による環境保全活動の活発化」に含まれる個別施策）

評価点 0 点の個別施策：該当なし

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標の状況から遅れが見られる指標が見受けられる。「クリーン船橋 530 の日参加人数」の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われる。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として 1.9 となっており、遅れが見られる個別施策があるものの、「自然科学研究所等を対象とした立地及び設備投資に対する補助制度の実施」等、取組が進んでいる個別施策が多く、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。

（3）評価

状態指標の状況	
まとめ	・環境問題に関心を持っている人の割合：アンケート回答者数の 9 割以上。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.9
まとめ	遅れが見られる個別施策があるものの、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価 （状態指標の数値を中心とした評価）	評価に対するコメント
C	環境問題に関心を持っている人の割合については、アンケート回答者の 9 割以上であった。次年度は環境新聞エコふなばしの発行回数を増やし、環境について知る機会を増やすことで、市民の環境に対する関心度を更に高めるなど取組を進めていくことが望ましい。
	環境問題に関心を持っている人の割合は初めての市民アンケート調査によることから基準値や目標値の設定がないため初年度における評価として C とした。

基本施策15：協働を促進する「しくみ」づくり

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
環境問題に関心を持っている人の割合(定期アンケート調査による) ★再掲	実施前	92.4% (※1)	— (※2)	— (※3)	100%

(※1) 令和4年度に実施したアンケートの値です。

(※2) 初めてアンケートを実施したため目標値は未設定です。

(※3) アンケートは隔年で実施するため、目標設定は行いません。

【状態指標の状況について】

- ・環境問題に関心を持っている人の割合は、初めてのアンケート調査により状態を確認した。今後、更に割合が増えるよう各施策を取り組む必要がある。

(2) 施策の進捗状況

●目標指標の状況(基本計画に記載した目標指標等)

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
ふなばしエコカレッジ卒業後の体験入団数	実施前	実施前	実施前	10人	30人
グリーン購入率(※)	75%	93.7%	80%	82%	購入率の向上

(※) 商品やサービスを購入する際に、価格、機能、品質だけでなく、「環境」の視点を重視し、環境への負荷ができるだけ少ないものを優先的に購入することです。

●施策の進捗評価

施策	施策の進捗評価	個別施策の数（注）				総数
		3～2点	2～1点	1～0点	0点	
協働に向けた体制の強化	1.7	0	5	1	0	6
協働を促進する制度づくりと活用	1.4	1	5	0	3	9
総合	1.5					

（注）○～△点の場合は、○点以下、△より大きい評価点を対象とする。

評価点 3～2 点の個別施策：①公共事業におけるグリーン購入や環境配慮契約の推進

（「施策：協働を促進する制度づくりと活用」に含まれる個別施策）

評価点 0 点の個別施策：①事業者の環境保全活動（CSR 活動）認定制度の創設・運営

②環境美化モデル活動認定制度などによる市民・事業者と市の協働の推進

③環境保全活動に取り組む市民・事業者・活動団体の表彰・顕彰

（「施策：協働を促進する制度づくりと活用」に含まれる個別施策）

【施策の進捗状況について】

- ・目標指標における「グリーン購入率」は、目標値を大幅に上回る状況で進行していると見受けられる。
- ・施策の進捗評価から、総合評価として 1.5 となっており、「公共事業におけるグリーン購入や環境配慮契約の推進」等、ある程度予定に則した形で施策進行している個別施策があるものの、「事業者の環境保全活動（CSR 活動）認定制度の創設・運営」等、遅れが見られる個別施策が多いため改善が必要である。

（3）評価

状態指標の状況	
まとめ	・環境問題に関心を持っている人の割合：アンケート回答者数の 9 割以上。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.5
まとめ	予定に則した形で進行している個別施策はあるものの、遅れが見られる個別施策が多く見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価 (状態指標の数値を中心とした評価)	評価に対するコメント
C	環境問題に関心を持っている人の割合については、アンケート回答者の 9 割以上であった。目標指標のグリーン購入率が目標値を大幅に超えていることから環境への関心の高さが見受けられる。次年度はエコカレッジが開講するため、環境リーダーの育成にも注力していくことが望ましい。
	環境問題に関心を持っている人の割合は初めての市民アンケート調査によることから基準値や目標値の設定がないため初年度における評価として C とした。

◆重点的な取組毎の評価

重点的な取組 1 : 「みんなで目指す！COOL(クール)な船橋、ストップ温暖化！」プロジェクト

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R 元年度)	現状 (R3 年度)		目標値 (R4 年度)	目標値 (R12 年度)
		現状値	目標値		
市民一人当たりの温室効果ガス排出量	6.25t-CO ₂ (※1)	5.08t-CO ₂ (※2)	5.92t-CO ₂	5.75t-CO ₂	4.43t-CO ₂
エコライフ実践度(家庭)	52%(※3)	57.5%	55.3%	56.9%	70%
エコオフィス実践度(事業者)	39%(※3)	46.9%	44.6%	47.5%	70%
エコドライブの実践割合(定期アンケート調査による)	64%(※3)	72.6%	67%	68%	80%
公共交通機関の一日当たり利用者数	71,739 人/日	52,282 人/日	71,739 人/日	71,739 人/日	現状維持
ごみの総排出量	204,788 t	199,387 t	194,300 t	201,551 t	184,393 t
健康寿命の延伸(※4)	男性：80.1 歳 女性：84.3 歳	— (※5)	(※6)	(※6)	未定(※7)

(※1) 平成25年度実績値です。

(※2) 令和元年度実績値です。

(※3) 平成30年度実績値です。

(※4) 本市の健康増進計画(ふなばし健やかプラン21(第2次)では採用)では、健康寿命(介護保険データを用いた「日常生活動作が自立している期間の平均(平均自立期間)」)を毎年評価する指標としていないため、毎年の目標は設定していません。経年変化を確認し、次期計画策定年前年(令和5年度)に評価する予定となっています。

データ出展元：ふなばし健やかプラン(第2次)推進評価委員会資料

(※5) 未確定です。(令和2年度の現状値を令和5年2月頃公開予定)

(※6) 平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加

(※7) 次期計画を策定時(令和6年度)に目標値及び評価時期を設定する予定ですが、現在、国が健康日本21(第2次)の最終評価を行っているため、今後の「健康寿命」の考え方や目標設定等の扱いが未定です。

(2) 施策の進捗状況

個別施策	個別施策の 進捗評価点
温室効果ガス排出抑制に関する情報提供	1
家庭における省エネルギーの取組の普及推進	2
環境イベントなどを通じたエコドライブの普及啓発	1
家庭における再生可能エネルギー利用設備の設置推進	2
市民や事業者への日常的なごみ減量活動の取組の普及・啓発	1
公共交通機関（路線バス等）の利用促進	0
学校・家庭での省エネ推進の呼びかけや環境問題への意識啓発	2
多様な広報媒体を活用した環境関連情報の提供	2
環境月間における環境啓発に関わるイベント（ふなばし環境フェア、パネル展等）の開催	2
ふなばし環境フェアへの参加・出展の呼びかけ	1
事業者の環境保全活動（CSR活動）認定制度の創設・運営	0
総 合	1.4

(3) 市民・事業者の取組状況

●市民の取組状況

市民に求められる行動	取組状況 評 価	回答数				
		3点	2点	1点	0点	総数
1-1 エコライフ行動	2.1	174	120	63	27	384
1-2 公共交通機関等の利用	1.8	142	94	84	60	380
1-3 太陽光設備設置の検討	0.5	34	—	—	157	191(※)
1-4 ヒートアイランド防止	0.6	27	34	76	244	381
1-5 エコ製品の購入	1.2	33	110	155	83	381
1-6 ごみの減量	2.3	197	123	48	18	385
1-7 環境イベントへの参加	0.3	6	10	84	283	383
総合	1.3					

※戸建住宅の方のみ回答

●事業者の取組状況

事業者に求められる行動	取組状況 評 価	回答数				
		3点	2点	1点	0点	総数
1-1 エコオフィス行動	2.5	79	32	7	4	122
1-2 省エネ設備の選択	2.3	53	53	12	4	122
1-3 エコ製品の販売・購入	1.8	30	47	35	10	122
1-4 ヒートアイランド防止	1.1	13	24	50	35	122
1-5 ごみの減量	2.6	79	39	4	0	122
1-6 効率的な輸送	1.8	43	32	29	18	122
1-7 環境イベントへの参加	1.3	21	22	51	28	122
総合	1.9					

●評価

状態指標の状況	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民一人当たりの温室効果ガス排出量：目標値達成状況良好。 ・ エコライフ実践度（家庭）：目標値達成状況良好。 ・ エコオフィス実践度（事業者）：目標値達成状況良好。 ・ エコドライブの実践割合：目標値達成状況良好。 ・ 公共交通機関の一日当たり利用者数：目標値未達成。 ・ ごみの総排出量：目標値未達成。 ・ 健康寿命の延伸：未確定。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.4
まとめ	予定に則した形で進行している個別施策はあるものの、遅れが見られる個別施策が少し見受けられる。
市民の取組状況	
取組状況の評価点	1.3
まとめ	節電、エコドライブなどのエコライフ行動や、ごみの分別、使い捨てプラスチック製品の不使用などごみの減量を実践している人は多いが、住宅への太陽光設備の設置や住宅の壁・屋上等の緑化、環境イベントの参加は実践しづらいことが見受けられる。
事業者の取組状況	
取組状況の評価点	1.9
まとめ	節電、クールビズなどのエコオフィス行動や、ごみの分別・リサイクルなどによる廃棄物の排出抑制に努めている事業者は多いが、緑のカーテンの活用や、環境イベントの参加は実践しづらいことが見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
（状態指標の数値を中心とした評価）	<p>市民一人当たりの温室効果ガス排出量や、エコライフ実践度、エコオフィス実践度、エコドライブの実践割合における状況は良好であり、市民や事業者の環境に対する意識の高さは見受けられる。</p> <p>公共交通機関の一日当たり利用者数は、公共交通機関の一日当たり利用者数の減少は、新型コロナウイルスの影響により外出が減少し、また、車での移動が増加したものと思われる。引き続き、公共交通機関（路線バス等）の利用促進策を検討し事業を進めていくことで、交通渋滞の解消や、運動機会の増加に伴う健康増進などが期待できる。</p> <p>目標年度における目標達成に向けて概ね順調な状況だが、一部遅れが見られる指標もあることから評価をCとした。</p>
C	

重点的な取組 2 : 「みんなで回す！自然の恵みサイクル、食から環境を良くしよう！」プロジェクト

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
生物多様性の認知度(※1) (定期アンケート調査による)	調査実施前	40.6% (※2)	— (※3)	—(※4)	認知度の向上 (調査毎)
地場食材を意識して購入している市民の割合(定期アンケート調査による)	61.1%	61%	63%	64%	70%
食品ロス量(ただし手付かず食品および食べ残しに限る)(推計)	15,958 t	— (※5)	15,461 t	15,213 t	13,225 t
市民一人当たりの温室効果ガス排出量	6.25t-CO ₂ (※6)	5.08t-CO ₂ (※7)	5.92t-CO ₂	5.75t-CO ₂	4.43t-CO ₂
定住意向(定期アンケート調査による)(※8)	84.9%	85.1%	—	—	—

(※1) 言葉の意味まで理解している人の割合です。

(※2) 令和4年度に実施したアンケートの値です。

(※3) 初めてアンケートを実施したため目標値は未設定です。

(※4) アンケートは隔年で実施するため、目標設定は行いません。

(※5) 令和3年度は分析していないため現状値は不明です。

(※6) 平成25年度実績値です。

(※7) 令和元年度実績値です。

(※8) 市民意識調査の結果による数値を引用しているため、目標値の記載はありません。

(2) 施策の進捗状況

個別施策	個別施策の進捗評価点
地域バイオマス等を利用したバイオガス発電の導入検討・推進	1.5
漁場を守り育てる担い手の育成	2
ふなばし三番瀬海浜公園・環境学習館等の海辺環境の利活用促進	1.7
海苔養殖、アサリ漁業などに関する講座・漁業体験等の実施	0
営農組織や認定農業者の育成	1
学校給食での地元食材の提供を通じた食育の推進	1
地場産品（農産物・水産物）の地産地消のしくみづくりと推進	1
地元食材を使った加工食品等のPR推進	1.5
食品ロスの発生抑制のための広報啓発の推進	2
環境学習館を利用した子どもたち環境保全活動の推進・支援	2
森林ボランティア等の育成・支援制度の充実	2
総合	1.4

(3) 市民・事業者の取組状況

●市民の取組状況

市民に求められる行動	取組状況 評価	回答数				
		3点	2点	1点	0点	総数
2-1 自然の保全活動の参加	1.3	57	92	156	81	385
2-2 地産地消、旬産旬消	1.7	81	133	125	44	383
2-3 消費期限内の消費	2.5	210	156	16	4	385
総合	1.8					

●事業者の取組状況

事業者に求められる行動	取組状況 評価	回答数				
		3点	2点	1点	0点	総数
2-1 生物多様性保全活動	1.0	12	13	62	35	122
2-2 地元産の食材の利用	1.2	17	18	53	34	122
2-3 食品廃棄物の減量化	2.1	9	9	4	1	23(※)
総合	1.4					

(※) 卸売・小売業、飲食業の事業所のみ回答

●評価

状態指標の状況	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の認知度：アンケート回答者の約4割が認知。 ・地場食材を意識して購入している市民の割合：目標値未達成。 ・食品ロス量：現状値不明。 ・市民一人当たりの温室効果ガス排出量：目標値達成状況良好。 ・定住意向：基準値より割合が増加。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.4
まとめ	予定に則した形で進行している個別施策はあるものの、遅れが見られる個別施策が多く見受けられる。
市民の取組状況	
取組状況の評価点	1.8
まとめ	食品ロス削減のため消費期限内の消費を実践している人は多いが、ふなばし三番瀬環境学習館等で自然の価値等の理解を深めることや、自然の保全活動等への参加は実践しづらいことが見受けられる。
事業者の取組状況	
取組状況の評価点	1.4
まとめ	食品廃棄物の減量化・リサイクルの推進を実施している事業者の割合は高いが、生物多様性の保全に向けた活動への参加や地元産の農林水産物の販売、食材としての利用は比較的实践しづらいことが見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	<p>生物多様性を認知する市民の割合は、アンケート回答者のうち約4割であった。環境フェアなどのイベントや講習会、各種啓発媒体により更に認知度を高めていく施策の取組を行うことで、自然の大切さに対する市民等の意識が高まり、生物多様性の保全に資する活動に向けた行動の普及促進が期待できると思われる。</p> <p>市民一人当たりの温室効果ガス排出量については基準値を下回っており評価できる数値だが、地場食材を意識して購入している市民の割合は基準値及び令和3年度目標値を下回り少し遅れが見られる状態であることから、市民の環境保全に対する意識の中でも、内容により差が見受けられる。遅れが見られる地場食材の購入については、輸送に係る燃料等の使用量削減や、地産地消の拡大による地域産業の成長が見込まれるため、更なる周知・啓発を進めていく必要がある。</p> <p>目標年度における目標達成に向けて概ね順調な指標もあれば、一部遅れが見られる指標もあることから評価をCとした。</p>
C	

重点的な取組3：「みんなでつなぐ！台地から海への水ネットワーク、育もう豊かな暮らし」プロジェクト

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
水辺を身近に感じる市民の割合（定期アンケート調査による）	調査実施前	37.5% (※1)	— (※2)	— (※3)	割合の向上 (調査毎)
市民一人当たりの都市公園面積	3.35 m ² /人	3.39 m ² /人	3.42 m ² /人	3.45 m ² /人	3.87 m ² /人
青潮等の年間発生回数	2回	4回	0回	0回	0回
動植物の生息地又は生育地となり得る緑地等の割合	25% (※4)	— (※5)	現状維持	現状維持	現状維持
雨水等が浸透可能な緑地等の割合	25% (※4)	— (※5)	現状維持	現状維持	現状維持
レクリエーション施設等利用者数 (※6)	830,809人	611,790人	700,000人	700,000人	利用者数の増加
多様な生態系を利用した環境保全活動・環境学習への参加人数	49,509人	61,137人	51,800人	54,000人	71,800人

(※1) 令和4年度に実施したアンケートの値です。

(※2) 初めてアンケートを実施したため目標値は未設定です。

(※3) アンケートは隔年で実施するため、目標設定は行いません。

(※4) 平成28年度の実績値です。

(※5) 未確定です。

(※6) 数値は、アンデルセン公園、海浜公園、潮干狩りの利用者数（1月～12月）の合計であり、県で発表している「千葉県観光入込調査報告書」の「スポーツ・レクリエーション施設観光入込客数」にあたり、同報告書内の観光地点入込客数とは異なる。（県の観光地点入込客数は、上記施設にサッポロビール千葉工場の入込客数を含む。）

(2) 目標指標の状況

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
多様な生態系を利用した環境 保全活動・環境学習への参加 人数	49,509人	61,137 人	51,800 人	54,000人	71,800人

(3) 施策の進捗状況

個別施策	個別施策の 進捗評価点
水辺および水辺周辺部の定期清掃・草刈等の実施	2
ふなばし三番瀬クリーンアップの実施	1
斜面緑地の保全	2
漁業関係者との協働による水産資源（魚類・貝類等）の生育場所の保全	2
緑地や農地等の保水機能を活用した洪水流出の抑制	2
防災・減災対策へのグリーンインフラの活用	2
緑や干潟など地域資源を生かしたエコツーリズムの推進	0.7
市民・事業者等に対するプラスチック・スマートへの取組の普及啓発	1
家庭でできる生活排水対策の推進	2
小規模事業場に対する排水対策指導	2
多自然川づくりの推進	2
市街地における雨水浸透施設（歩道の透水性舗装など）の整備	1.5
雨水浸透樹設置等整備の推進	3
樹林地・農地の保全	2
自然体験学習やレクリエーション機会の充実	2
総 合	1.8

(4) 市民・事業者の取組状況

●市民の取組状況

市民に求められる行動	取組状況 評 価	回答数				
		3点	2点	1点	0点	総数
3-1 緑の関連活動の参加	0.2	7	4	66	306	383
3-2 水辺等の価値の学習 (※)	—	—	—	—	—	—
3-3 雨水浸透柵等の設置	0.8	50	—	—	132	182
3-4 生活排水に関する工夫	2.6	276	74	18	14	382
3-5 水辺の清掃活動の参加	0.2	8	6	54	314	382
3-6 使い捨て製品の不使用	2.7	277	85	18	1	381
3-7 マイバッグ等の使用	2.5	243	105	24	9	381
総合	1.5					

(※) 質問の内容が難しいためアンケートに含めていません。

●事業者の取組状況

事業者に求められる行動	取組状況 評 価	回答数				
		3点	2点	1点	0点	総数
3-1 開発行為等の事業活動 における地域の自然に配慮	1.6	21	47	42	12	122
3-2 水辺等の価値や機能を利用した 事業活動の実施	1.1	14	18	57	33	122
3-3 雨水浸透柵等の設置	1.0	14	16	43	49	122
3-4 排水の適正処理	2.5	72	38	8	4	122
3-5 水辺の清掃活動の参加	0.8	14	7	39	62	122
3-6 プラスチック廃棄物の 排出抑制	2.1	8	10	5	0	23(※)
総合	1.5					

(※) 卸売・小売業、飲食業の事業所のみ回答

●評価

状態指標の状況	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺を身近に感じる市民の割合：アンケート回答者の4割弱。 ・市民一人当たりの都市公園面積：目標値未達成。 ・青潮等の年間発生回数：目標値未達成。 ・動植物の生息地又は生育地となり得る緑地等の割合：未確定 ・雨水等が浸透可能な緑地等の割合：未確定 ・レクリエーション施設等利用者数：目標値未達成。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.8
まとめ	遅れが見られる施策があるものの、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。
市民の取組状況	
取組状況の評価点	1.5
まとめ	生活排水の工夫やマイバッグ等の使用により使い捨て製品の購入を控えている人は多いが、水辺・緑の価値、機能に関する学習や水辺の清掃活動の参加は実践しづらいことが見受けられる。
事業者の取組状況	
取組状況の評価点	1.5
まとめ	事業活動に伴う排水の適正処理や使い捨て容器包装類を減らしプラスチック廃棄物の排出抑制に努めている事業者は多いが、水辺の清掃活動への参加や水辺や緑が持つ様々な価値や機能を利用した事業活動は実践しづらいことが見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	<p>水辺を身近に感じる市民の割合は4割弱であった。また、市民一人当たりの都市公園面積や青潮等の年間発生回数、レクリエーション施設等利用者数は目標値を下回っているなど、状態は良好ではない。</p> <p>市内の台地における樹林地や農地、斜面緑地の保全や、河川の中・下流域における家庭・事業所からの排水対策や雨水浸透柵の促進を図り、河口・海岸では、水質改善・意識啓発に向けて干潟のクリーンアップ等の取組等進めることで、水環境や生物多様性の保全に効果があると思われる。</p> <p>目標年度における目標達成に向けて遅れが見られる指標もあることから評価をDとした。</p>
D	

重点的な取組4：「みんなでつくる！環境を守り育てるひとづくり・協働の環」プロジェクト

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
環境問題に関心を持っている人の割合(定期アンケート調査による)	調査実施前	92.4% (※1)	— (※2)	—(※3)	100%

(※1) 令和4年度に実施したアンケートの値です。

(※2) 初めてアンケートを実施したため目標値は未設定です。

(※3) アンケートは隔年で実施するため、目標設定は行いません。

(2) 目標指標の状況

目標指標	基準値 (R元年度)	現状 (R3年度)		目標値 (R4年度)	目標値 (R12年度)
		現状値	目標値		
ふなばしエコカレッジ卒業生数(毎年度)	実施前	実施前	実施前	30人	45人
出前講座の開催回数	11回	0回	12回	13回	20回
多様な生態系を利用した環境保全活動・環境学習への参加人数	49,509人	61,137人	51,800人	54,000人	71,800人
環境団体等との協働による環境学習事業・講座の開催回数	5回	6回	6回	7回	15回

(3) 施策の進捗状況

個別施策	個別施策の進捗評価点
環境保全の担い手の育成と地域参画の促進	2
ふなばしエコカレッジの開講	2
環境に関する講座の実施や環境学習に資する行事・イベントの開催に対する支援	2
環境団体等との協働による環境学習事業・講座の開催	2
市内事業者向けの講習会の開催	1
環境団体との協働によるふなばしエコカレッジの運営	2
ふなばしエコカレッジ卒業生の体験入団を通じた環境団体の後継者育成	2
環境美化モデル活動認定制度などによる市民・事業者と市の協働の推進	0
総合	1.6

(4) 市民・事業者の取組状況

●市民の取組状況

市民に求められる行動	取組状況 評 価	回答数				総数
		3点	2点	1点	0点	
4-1 エコカレッジを通じた環境保全に取り組む仲間づくり(※)	—	—	—	—	—	—
4-2 環境問題における正しい情報・知識の収集	1.1	30	84	166	101	382
4-3 地域の環境イベントで参加者との交流を深める	0.2	9	4	48	322	383
4-4 清掃ボランティアや地域の緑化活動等への参加	0.4	11	17	73	282	383
総合	0.6					

(※) エコカレッジの受講は限定的なためアンケートに含めていません。

●事業者の取組状況

事業者に求められる行動	取組状況 評 価	回答数				総数
		3点	2点	1点	0点	
4-1 社員に対する環境研修・環境教育の実施	1.4	24	25	48	25	122
4-2 環境保全の取組により得た知識等の情報発信	1.2	21	18	51	32	122
4-3 学習会等への参加及び参加者同士の交流を深める	1.0	12	14	58	38	122
4-4 市民団体等の環境保全活動への協力	1.4	24	23	47	28	122
総合	1.3					

●評価

状態指標の状況	
まとめ	・環境問題に関心を持っている人の割合：アンケート回答者の9割以上。
施策の進捗状況	
施策の進捗評価点	1.6
まとめ	遅れが見られる施策があるものの、ある程度予定に則した形で施策進行しているものと見受けられる。
市民の取組状況	
取組状況の評価点	0.6
まとめ	環境問題に関する情報・知識の集積や、環境に関するイベント、清掃ボランティア活動への参加は実践しづらいことが見受けられる。
事業者の取組状況	
取組状況の評価点	1.3
まとめ	事業所の環境保全に関する取組等で蓄積した知識等の活用による情報発信や、市や各種団体が実施する学習会等への参加及び参加者同士の交流は比較的实践しづらいことが見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価 (状態指標の数値を中心とした評価)	評価に対するコメント
C	<p>環境問題に関心を持っている人の割合は9割以上と高い割合であった。市民や事業者等様々な立場・世代への環境保全活動の取組の環を広げていくため、環境保全活動に関する情報提供や講演会の開催、イベント開催等に関する支援等の取組を実施し、環境団体による活発で持続可能な環境保全活動が更に進むことが期待される。</p> <p>環境問題に関心を持っている人の割合は初めての市民アンケート調査によることから基準値や目標値の設定がないため初年度における評価としてCとした。</p>

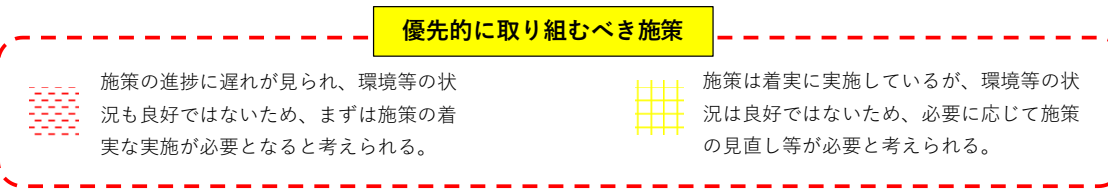
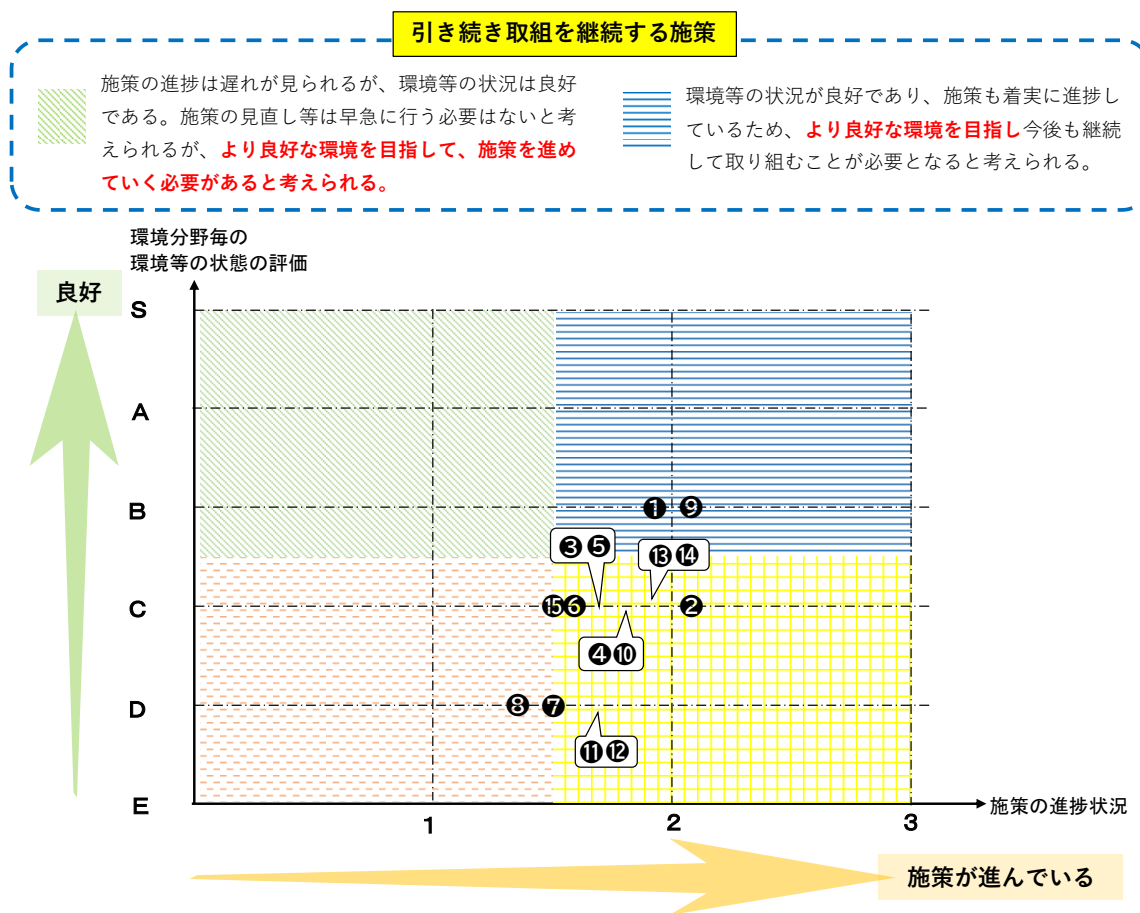
第三章

船橋市環境基本計画の進捗状況の総合的評価

1. 環境分野全体の評価

(1) 各環境分野（基本施策毎）の現状と施策の進捗状況

各環境分野（基本施策毎）の現状と施策の進捗状況の関係を以下の図で示します。



基本施策	環境分野毎の環境等の状態の評価	施策の進捗状況
① 地球温暖化対策の総合的な推進	B	1.9
② 省エネルギーの推進	C	2.1
③ 創エネルギーの推進	C	1.7
④ 親しみやすい水辺の創出	C	1.8
⑤ まちの緑の育成	C	1.7
⑥ 多様な生態系の保全	C	1.6
⑦ 自然の恵みの持続的な活用	D	1.5
⑧ 循環型社会の推進	D	1.3
⑨ 廃棄物の適正処理の推進	B	2.1
⑩ 良好な大気への保全	C	1.8
⑪ 健全な水環境への保全	D	1.7
⑫ 快適な生活環境への保全	D	1.7
⑬ 船橋の環境を担う「ひと」づくり	C	1.9
⑭ 船橋の環境を育む「つながり」づくり	C	1.9
⑮ 協働を促進する「しくみ」づくり	C	1.5

(2) 環境分野全体の総合的な評価

●環境分野全体の総合的な評価

15の基本施策のうち、2つの基本施策（約13%）が評価B、9つの基本施策（60%）が評価C、4つの基本施策（約27%）が評価Dの評価となった。

評価がCとDの基本施策については環境状況が良好ではないため、重点的に取り組むべき施策として今後取組を進めていくことが必要である。

進捗が遅れている、「健全な水環境の保全」では、海域・湖沼の富栄養化防止等を図るため、千葉県や近隣自治体と連携しながら広域的な対策を行っていくことが望まれる。

また、「自然の恵みの持続的な活用」では、地産地消、食育の推進を図るため、多様な手法を通じたPRを行うなど市民への啓発を進めていくことが必要である。

一方で、「地球温暖化対策の総合的な推進」では、市民一人当たりの温室効果ガス排出量が目標値を達成し、2030年における温室効果ガス排出量の46%削減目標（2013年比）に向け順調に進んでいることから、今後も継続して取組を進めていくことが望ましい。

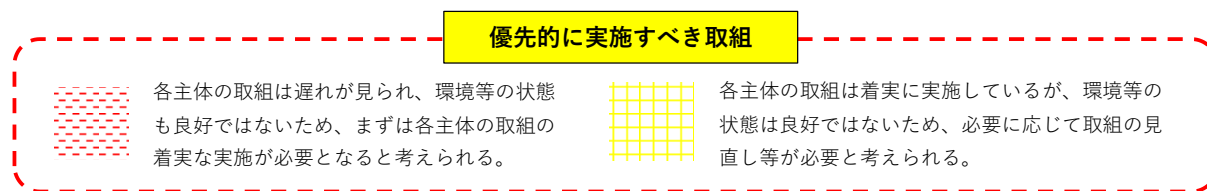
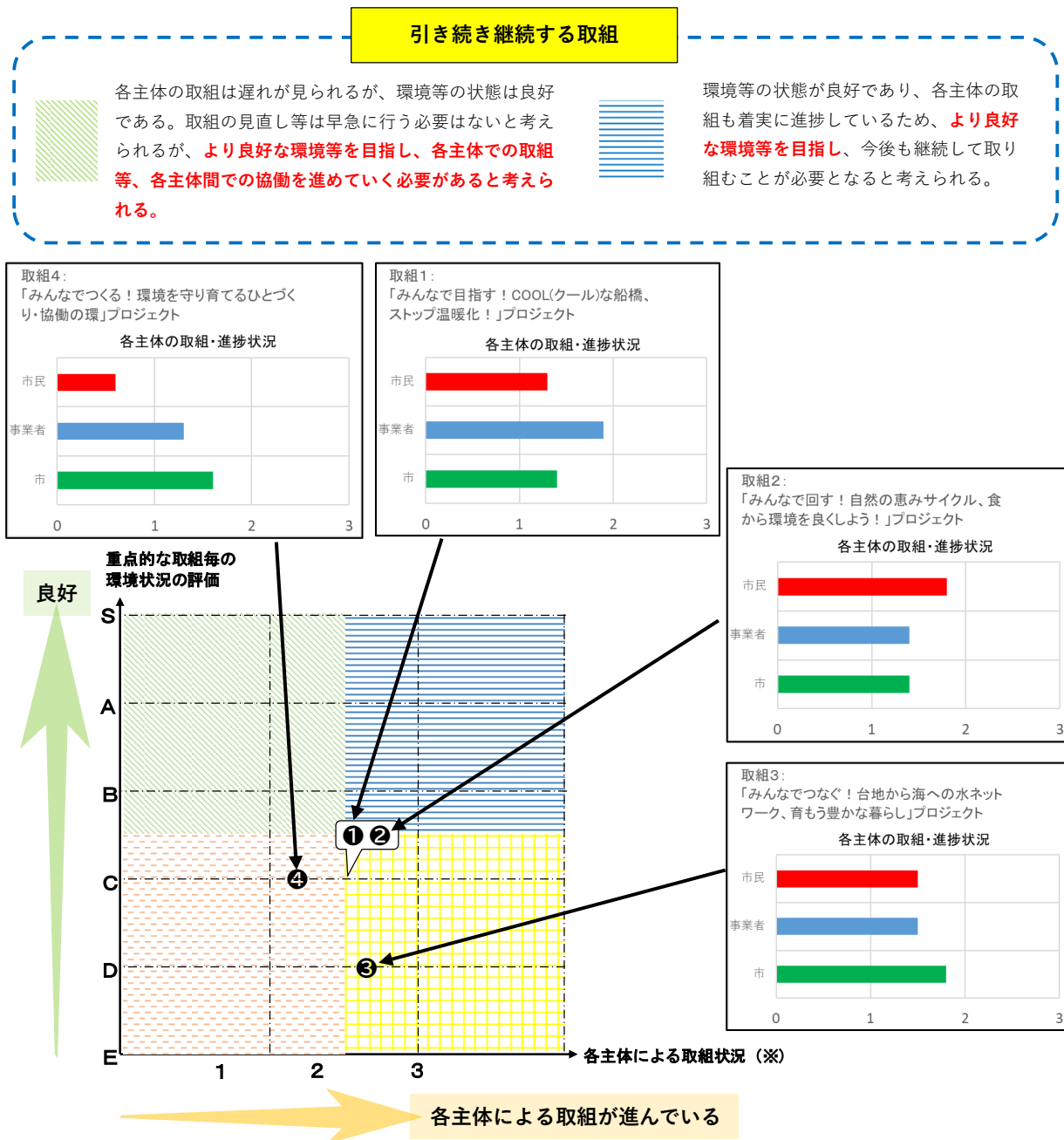
このように、今回の評価結果により船橋市が抱える課題が明確化したことから、継続的に取り組む施策と重点的に取り組む施策に分け、効果的に進めていくことが求められる。

なお、各施策の中には、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため進捗が遅れてしまった取組もあるが、コロナ禍においても別の方法で取組を進めていくことの可否を検討し進捗させることが望ましい。

2. 重点的な取組の全体的な評価

(1) 重点的な取組毎の環境の現状と各主体による取組状況

重点的な取組毎の環境の現状と各主体による取組状況を以下の図に示します。



※ 各主体による取組状況の算出方法

施策の進捗状況評価点 + 市民の取組状況評価点 + 事業者の取組状況評価点

3

	重点的な取組	重点的な取組毎の 環境状況の評価	個別施策	市民の 取組状況	事業者の 取組状況	各主体による 取組状況
①	「みんなで目指す！COOL(クール)な船橋、ストップ温暖化！」プロジェクト	C	1.4	1.3	1.9	1.5
②	「みんなで回す！自然の恵みサイクル、食から環境を良くしよう！」プロジェクト	C	1.4	1.8	1.4	1.5
③	「みんなであつなぐ！台地から海への水ネットワーク、育もう豊かな暮らし」プロジェクト	D	1.8	1.5	1.5	1.6
④	「みんなで作る！環境を守り育てるひとづくり・協働の環」プロジェクト	C	1.6	0.6	1.3	1.2

(2) 重点的な取組における総合的な評価

●重点的な取組における総合的な評価

4つの重点的な取組のうち、3つの重点的な取組(75%)が評価C、1つの重点的な取組(25%)が評価Dの評価となった。

重点的な取組は、環境・経済・社会の統合的向上を見据え、体系化した施策から分野横断的に一連のつながりを持った施策を抽出し、市民・事業者・行政等が一体となって取り組める「船橋らしさ」を持った4つの重点的な取組として設定しており、評価においてはより重きをおくべきものと捉えている。

進捗が遅れが見られる重点的な取組3「みんなであつなぐ！台地から海への水ネットワーク、育もう豊かな暮らし」では、取組の効果として、水環境・生物多様性の保全などの環境課題だけではなく、グリーンインフラの導入などによる防災・減災への活用や、エコツーリズムによる交流人口の拡大といった地域課題に対する効果も見込まれるものと捉えている。施策として遅れが見られる緑や干潟など地域資源を生かしたエコツーリズムの推進やふなばし三番瀬クリーンアップにおける参加者数の増加に向けた啓発、市民・事業者等に対するプラスチック・スマートへの取組の普及啓発などの取組を今後進め、取組の進捗における全体的な底上げを図ることにより、地域課題を含めた分野横断的な取組の効果が見込まれるものと思われる。

今回の評価結果では、いずれの重点的な取組も環境状況が良好ではないことから、それぞれの取組において遅れが見られる施策をより重点的に進め、また、市民、事業者、行政等がそれぞれの役割を自覚し、また、連携しながら行動していくことが重要であると考えます。